

# 2021年の出発をお慶び申し上げます！



新年快樂！ 明けましておめでとうございます。2020年中は富谷市日中の皆様にとりましてどのような年だったでしょうか。新型コロナウイルスが猛威を振るい、我々の生活や営みに大きく影響し、自粛という単語が多く用いられた年でもありました。日本中国友好協会及び県協会設立70周年の佳節を迎えた年ではありましたが、

富谷市日中の活動も変更を余儀なくされ、会員の皆様には、我慢の中の活動であったと拝察いたします。本当にご苦労様でした。

さて、そのような中での2021年。新たな年は「丑年」です。「丑」は中国で生まれた漢字です。農業や酪農で最後まで助けてくれる大切な動物で、この字自体は、植物の芽がまだ種の中で伸びることができない状態を表すとされています。このことから「丑年」は我慢そして発展の前触れを表す年になると言われております。どうか富谷市日中の皆様にとって、発展につながる希望の年でありませう、お祈りいたします。全家健康！

2021年元日

富谷市日中友好協会会長 中山耕一

(写真は復興10年を迎える南三陸の夜明け)

## ☆拡大で中国語講座を開催☆

「100年前の和製漢語は中国語にどのような影響を及ぼしたのか—今の日本語も中国語に影響を与えている」と題して、12月5日午後、富ヶ丘公民館で、講師に周建明氏を迎え10名が参加し行われました。

## 【丑(う)年 アラカルト】

「牛の歩みも千里」一牛の歩みは遅いけれど、その遅い足取りでも、弛まず歩き続ければ遠い所まで行ける。この事から怠けることなく努力を続ければ、成果は必ず上がるという意味。この“たゆまず、努力”がなかなか難しい。

## 私の友好記憶 「中国語を通して！」 中村真也

私が中国を意識したのは90年代からで、天安門事件以来、日本をはじめ国際的に厳しい状況となり、天皇訪中以降も江沢民主席の反日教育や小泉首相の靖国参拝等、新聞やTVニュースで日中の諸問題を目にする機会は多く意識をせざるをえなかったのです。

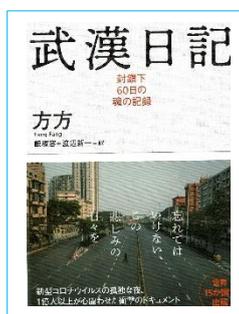
初めて中国語にふれたのは大学時代で、恥ずかしながら明確な動機は無かったのですが、そうした日中の状況が影響したのかもしれない。それが今日に至る活動につながっているのですから、分からないものです。最初は不安でした。反日のニュース見ていたので中国の方が私にどう接してくれるか、見当がつかなかったのです。しかし予想以上に中国の方々には気さくで、私の不安は杞憂で終わりました。過去のことは過去として、青年として未来にどのように歩んでいくのか、友人との対話は心が洗われる思いでした。

2012年には台湾に旅行し故宮博物院等を訪問しました。2015年には独学で中国語検定2級を取得しました。あわよくば上をとも考えています。富谷市日中、青年委員会の活動を通し、実力アップしたいと思います。日中関係は歴史や領土を巡り厳しいものがあります。しかしこういう時こそ民間の地道な活動が欠かせません。微力ながら未来志向の日中関係改善に尽力したいと思います。

写真④は台南市の鄭成功義和園で



『武漢日記』—封鎖下60日の魂の記録 方方(ファンファン) 著 (河出書房新社、1760円)



武漢で新型コロナウイルスが発症して1年が経つ。「ヒトーヒト感染はない、予防も制御もできる」という初期対応の失敗から死者3千人及び都市封鎖2ヶ月半。本書は元湖北省作家協会主席で魯迅文学賞受賞者である著者自身の籠城生活をブログで発表した60日の個人日記であり、本書は15か国で出版された。

籠城ではあるが医者や学者、親戚、友人からの情報提供と公務員アパート生活の体験を通し、この問題での責任追及そして忍耐強く助け合う武漢人を伝えている。日記には毎日タイトルもつけられ「私たちの涙が尽きる事はない」「ここまで来たら、もう削除はないだろう」等だ。心に留めておきたい歴史である。(M)

籠城ではあるが医者や学者、親戚、友人からの情報提供と公務員アパート生活の体験を通し、この問題での責任追及そして忍耐強く助け合う武漢人を伝えている。日記には毎日タイトルもつけられ「私たちの涙が尽きる事はない」「ここまで来たら、もう削除はないだろう」等だ。心に留めておきたい歴史である。(M)